

共創研究センターの取り組み

共創研究センター長 相馬 弘年

共創研究センターは大学と地域自治体や企業とが“共に創る”をキーワードに緊密に連携し、研究プロジェクトを企画・推進して石巻地域を活力ある街にすることを目指し、設立された。震災後は、被災地域の広域連携による長期にわたる一体的復興戦略の構築を図り、より一層の“共創”を目指している。

共創研究センター

地震、津波、放射能汚染のトリプル災害に見舞われた東日本大震災では、最大の被害を受けた石巻地域に立地する本学にとって、その復興に向けた取り組みを厳しく求められていることに異論の余地はない。共創研究センターでは、大学と地域自治体や企業とが“共に創る”をキーワードに緊密に連携し、研究プロジェクトを企画するとともに推進し、石巻地域の活性化の重要な一翼を担うことを目指しているが、継続課題も含め、復興を中心的なポイントとする論理の組み替えを行うことの重要性が増している。震災直後、いち早く立ち上がった本学の復興共生プロジェクトを担い、大学開放センターとも緊密に連携し、地域の活性化に向けた真摯な議論を進めなければならない。

福島第一原発事故の真の原因は何か。この問いに答えるのは容易ではない。だが少なくとも、人間自身が作り出した大災害であり、その被害の広がりには社会的、地理的、時間的に限界がない。これは地震や津波などの自然災害とは本質的に異なる。この教訓は、女川原子力発電所に対する将来対策という難問にも取り組む必要があることを意味しており、新エネルギーの開発・育成とも無縁ではありえないことを示している。被災地域の広域連携による長期にわたる一体的復興戦略の構築にも本学の果たす役割は大きい。ここでは、今後の進展を睨み、共創研究センターのこれまで(平成23年度)の活動

の概略を報告するに止める。

【1】共創研究センター研究プロジェクトの募集等

第1回運営委員会(5月11日)確認事項

- (1) 石巻市からの補助金助成の執行が凍結されていることを受け、補助金の額が決定した上で研究プロジェクト及びサテライトキャンパス企画の学内公募を行う。
- (2) 震災の被害により石巻市役所でのサテライトキャンパス企画は実施出来ないが、調整が可能な企画について、学内公募を行う。
- (3) 災害復興プロジェクト(仮称)の立ち上げに本センターとしても協力する。
- (4) 平成22年度共創研究センター発表会を今年度で開催する

【2】共創研究センター研究プロジェクト・サテライトキャンパス企画採択

第2,3回運営委員会(6月23日,30日)確認事項

- (1) 研究プロジェクト及びサテライトキャンパス企画の採択

【研究プロジェクト】

NO.1 石巻専修大学・東日本大震災デジタルアーカイブ制作のための調査研究

代表：理工学部 教授 綾 皓二郎

経営学部 教授 佐々木万亀夫

理工学部 講師 川村 暁

大震災の記録や証言、それから得られる教訓、さらに地域の復旧・復興への思いや提案などをデジタルアーカイブとし、石巻圏域の復旧・復興支援の一助とする。多様な形式での一次データの集積と公開に向け、予備的調査研究を行う。

NO.2 牡鹿半島に生息するニホンジカの北上ルートの解明

代表：理工学部 教授 土屋 剛

理工学部 教授 根本 智行

理工学部 教授 柴田 清孝

大日本猟友会宮城県猟友会

石巻支部・支部長 永松 重信

牡鹿半島に生息するニホンジカは、北上川を越え生息域を北へ広げている。甚大な農業被害を未然に防ぐため、シカの遺伝子解析を行い、北上する母集団の生息地を特定し、この母集団に狩猟圧を集中的に加えることにより、北上を阻止する。

NO.3 石巻地域における東日本大震災後の教育および教育支援に関する調査研究

代表：理工学部 教授 根本 泉

理工学部 教授 山崎 省一

理工学部 教授 工藤すばる

理工学部 准教授 指方 研二

理工学部 特命教授 近藤 裕子

大震災は小・中学校の教育現場にも大きな影響をもたらした。さまざまな角度から震災後の地域の教育の在り方を検討し、教育力の向上に貢献するための調査・研究を行う。

NO.4 換金作物による農地の塩害および重金属汚染の除去ならびに農家の収入確保に関する研究

代表：理工学部 教授 鈴木 均

理工学部 教授 福島 美智子

自営業(専業農家) 小山 桂典

津波により農地は塩害をこうむると共にヘドロによって汚染され、沿岸の農業は壊滅的打撃を受けた。植物栽培による環境修復の手法を用い、農地回復の実現可能性を探ると共に、新たな食材の生産基地としてその農地利用の可能性を見いだす。

NO.5 東日本大震災の被災地石巻圏における復興初期のボランティア・ツーリズムの円滑な実施のための条件の研究

代表：経営学部 准教授 丸岡 泰

経営学部 特命教授 大森信治郎

本震災でのボランティア参加者、団体等の性格・行動・動機、中間組織の役割、現地コミュニティへの影響等を把握することを試みる。阪神・淡路大震災など大規模な災害時に現れたボランティア活動との比較を念頭に置いて調査を進める。

NO.6 東日本大震災の津波による自動車災害の発生状況調査

代表：理工学部 教授 山本 憲一

理工学部 教授 川島 純一

理工学部 教授 若月 昇

今回の震災では多くの車両が津波に流され、亡くなった方も多い。車両は最初浮きそして沈む。従来水上に落下した場合、出来るだけ早く脱出することが求められていた。しかし津波の場合、最初から車を捨てるのが良いのか、どのような状態で車両から脱出するのが最良なのか、また車両はどのようなアシストを運転者にあたえればよいのかを考えたい。

NO.7 石巻ボランティア情報センターの設立・運営による石巻市復興支援の実証的研究

代表：経営学部 教授 栗山 規矩

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会などの対応・動向

6 建物と地盤について

7 震災を振り返って

資料編

各学部・委員会などの対応・動向

経営学部 教授 大坂 良宏

GREENHEART(NPO)

教育ディレクター Allwright Gavin

石巻災害ボランティアセンター

コーディネーター 田畑 豊史

石巻専修大学 大学院生 伊藤 寿朗

経営学部 助教 舩井 道晴

石巻市はその多くが壊滅的被害を受け、復旧復興にとってボランティア支援は不可欠となった。被災地とボランティアとのニーズを収集・整理・発信し、ボランティアの継続的な支援を可能にする情報センターの運営方法を実証研究する。

NO.8 生活活動量を基軸とした健康介入プログラムが石巻市高齢者の健康管理度と自己効力感に与える影響

代表：理工学部 准教授 山内 武巳

東北大学大学院教育情報学研究部

教授 北村 勝朗

理工学部 客員教授 時光 一郎

石巻市健康部健康推進課 庄司 勝彦

石巻市健康部健康推進課 高橋 由美

石巻市健康部健康推進課 石川 和江

石巻市健康部健康推進課 遠藤美由貴

石巻市と石巻専修大学による疾病予防と健康増進の連携事業としてISU健康支援プログラムを提供する。本プログラムは運動、スポーツにこだわらずに日常生活活動の活動量を増やすことに重点を置いた健康教室であり、石巻地域における生活習慣予防施策への貢献が期待される。

NO.9 有用海産微細藻類の大量培養法に関する応用研究

代表：理工学部 教授 佐々木 洋

理工学部 准教授 太田 尚志

スメーブジャパン社長 原 芳道

スメーブジャパン社員 平岡 正明

数種類の海産微細藻類は細胞内に有用な化学成分を効率よく蓄積する。それらの抽出物を利用したEPA生産、バイオ燃料生産に対する期待が高い。前年度の基礎的実験成果を通して実用化に向け、現実的環境条件の中で大量培養実験を試みる。

NO.10 エンジョイ・スーパーサイエンス

代表：理工学部 教授 丸岡 章

理工学部 教授 鈴木 均

理工学部 教授 佐々木 洋

理工学部 教授 相馬 弘年

経営学部 教授 阿部 康一

理工学部 准教授 輪田 直子

高校生を対象に、“自ら学ぶことのたのしさ”を体験してもらうため、日常の高校の授業と異なる独自の教材に基づいた教育プログラムを実施する。

【サテライトキャンパス企画】

復興活動の関係者の状況報告と意見交換とを目的とした“共生プラザ”の開催

代表：大学開放センター長 教授 若月 昇

経営学部 准教授 李 東勲

理工学部 客員教授 斎藤 方達

街づくりまんばん(株) 西条 充敏

専修大学人間科学部教授 大矢根 淳

石巻専修大学同窓会会長 伊東 孝浩

既に多数の復興支援関連のグループが学内外で活動しているが、グループ間の連携や交流は十分ではなく、重複する部分も多い。そこで復興・再生・創設に向けて取り組むグループ同士が気軽に現状を話し合い、課題を共有し、また解決策を模索する場として、石巻専修大学のコーディネートによるワークショップ「共生プラザ」を開催する。地域住民の情報交換や討議の場として、また町の若い人達の勉強の場として活用して頂ければ幸いである。なお、本プログラム以外の議題の提案

も歓迎する。

(2) 研究プロジェクトの成果報告会をシンポジウム形式で実施する。なお、詳細については、継続審議とすることとなった。

[3] 平成23年度【研究プロジェクト】シンポジウム

第4回運営委員会(9月1日)確認事項

(1) シンポジウムに関する事項

- ・研究プロジェクトの発表は、研究紹介とする。
- ・I部(3月17日)の座長は大坂良宏教授、II部(3月18日)の座長は泉正明教授が務める。
- ・特別講演の外部講師の調整は、相馬センター長が行う。

1. 開講日時 平成24年3月17日(土)・18日(日) 13:00~

2. 会場 石巻専修大学 5号館3階 5301教室

3. 次第

3月17日(土) 13:00~ 3月18日(日) 13:00~

挨拶	坂田 隆 学長 挨拶(5分)
趣旨説明	北村 悦朗 副センター長(石巻市副市長) 趣旨説明(5分)
総合講演	総合講演(30分) 星 雅俊(石巻市震災復興部長) 「最大の被災都市から世界の復興モデル都市石巻を目指してー石巻市震災復興基本計画と主な復興事業ー」
第I部	座長:大坂 良宏 経営学部 教授
	《特別講演》(30分:講演時間・質疑応答) ・専修大学社会資本研究センター長 原田 博夫(専修大学大学院経済学研究科長・教授) 「災害とソーシャル・キャピタル(社会関係資本)」 ・石巻災害復興支援協議会 伊東 孝浩(石巻専修大学同窓会会長) 「東日本大震災における石巻専修大学の果たした役割ーボランティアセンターから復興支援協議会までー」 ・女川町 町長 須田 善明 「我が町における今度復興の本題(何をを目指すのか)」
	《研究紹介》(20分:講演時間・質疑応答) ・石巻専修大学・東日本大震災デジタルアーカイブ制作のための調査研究 (研究代表者:綾 皓二郎 理工学部 教授) ・石巻地域における東日本大震災後の教育および教育支援に関する調査研究 (研究代表者:根本 泉 理工学部 教授) ・東日本大震災の被災地石巻圏における復興初期のボランティア・ツーリズムの円滑な実施のための条件の研究 (研究代表者:丸岡 泰 経営学部 准教授) ・石巻ボランティア情報センターの設立・運営による石巻市復興支援の実証的研究 (研究代表者:栗山 規矩 経営学部 教授) ・サテライトキャンパス企画「共生プラザ」 (代表者:若月 昇 理工学部 教授)
名刺交換会:5号館 学生ホール	

(2) 「平成23年度【研究プロジェクト】シンポジウム」の開催(素案)

目的:石巻市と石巻専修大学との地域連携事業による本研究プロジェクトは、3月の大地震発生から3ヶ月半後に立ち上がった。各研究テーマは、復興や大災害に対する備えに関しての貢献を目的とする議論が中心となっており、中間的、かつ、経過的内容も含まれている。石巻市からの総合講演、招待講演を交えて、本シンポジウムを、今後の発展を見出す活発な議論を引き出す機会としたい。

3月18日(日) 13:00~

第II部	座長:泉 正明 理工学部 教授
	《特別講演》(30分:講演時間・質疑応答) ・ライトレール 代表取締役社長 阿部 等 「新しい時代を見据えた石巻市の交通体系のあり方」 ・宮城県水産技術総合センター 養殖生産部 田邊 徹 「宮城県のカキ養殖復興への取組」 ・三重大学自然災害対策室(災害対策コーディネーター) 林 克己 「東海・東南海・南海の3連動地震津波に備える三重大学の減災体制構築について」
	《研究紹介》(20分:講演時間・質疑応答) ・換金作物による農地の塩害および重金属汚染の除去ならびに農家の収入確保に関する研究 (研究代表者:鈴木 均 理工学部 教授) ・東日本大震災の津波による自動車災害の発生状況調査 (研究代表者:山本 憲一 理工学部 教授) ・有用海産微細藻類の大量培養に関する応用研究 (研究代表者:佐々木 洋 理工学部 教授) ・牡鹿半島に生息するニホンジカの北上ルートの解明 (研究代表者:土屋 剛 理工学部 教授) ・生活活動量を基軸とした健康介入プログラムが石巻市高齢者の健康管理度と自己効力感に与える影響 (研究代表者:山内 武巳 理工学部准教授)
挨拶	相馬 弘年センター長(理工学部 教授) 挨拶(5分)

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会などの対応・動向

6 建物と地盤について

7 震災を振り返って

資料編

各学部・委員会などの対応・動向

4. 学生の活動状況のポスター展示(発表)

激動の中、学生たちが必死になって取り組んできた教育活動・研究活動・課外活動などの成果・結果・記録を紹介する場として、ポスター展示・発表を5号館の学生ホールを会場に実施する。

・学部単位、学科単位、研究室単位、ゼミナール単位、サークル等単位、学生の有志

5. 共催 石巻市

6. 後援 女川町、東松島市、登米市、石巻商工会議所、石巻信用金庫、(社)石巻災害復興支援協議会、(社)ピースボート災害ボランティアセンター

＊石巻専修大学共創研究センター「平成23年度【研究プロジェクト】シンポジウム」は、復興共生プロジェクトの一環として実施する。

(3) 佐々木洋研究代表の研究プロジェクトの一環として「市民のための公開講座:藻から石油が取れるの? 市民のためのマリンバイオマスエネルギー理解講座」を、9月14日(水)に開催する。

(4) 栗山規矩教授より、復興共生プロジェクトが学生に還元・結びつく仕組みが必要であるとの提言がなされた。

[4] その他の活動

(1) 地域安全学会の「東日本大震災に関わる防災視察調査」(6月24日)
重川希志依客員教授(地域安全学会会長)引率

(2) 専修大学社会関係資本研究センターの「復旧・復興・再生への“絆と連携”」開催への調査協力
テーマ:「復旧・復興・再生への“絆と連携”」
■日時:平成23年7月16日(土) 13:00~18:30
■場所:専修大学神田キャンパス 7号館3階

731号教室

■主催:専修大学社会知性開発研究センター
／社会関係資本研究センター
・講演:13:25~14:55
《現地からのメッセージ》
亀山 紘(石巻市長)
坂田 隆(石巻専修大学学長)

(3) 石巻専修大学共創研究センター『市民のための公開講座』

“藻から石油が取れるの?”
ー市民のためのマリンバイオマスエネルギー理解講座ー

テーマ(講師)	
基調講演 “微細藻オーランチオキトリウムで日本は石油の輸出国に!”	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 教授 渡邊 信
“石巻バイオタウン構想とは?”	石巻市 市長 亀山 紘
“藻から血液サラサラの薬やサプリメントもできるの?”	株式会社共生資源研究所 社長 徳田 昌則 (東北大学 名誉教授)
出遅れている日本の藻から石油の実証研究、間に合うのか?”	ジェイ・フェニックス・リサーチ 社長 宮下 修
総合討論 “なぜ石巻が選ばれたの?”	スメーブジャパン株式会社 社長 原 芳道 理工学部生物生産工学科 教授 佐々木 洋

1. 開講日時 平成23年9月14日(水) 13:30~17:00
2. 会場 石巻専修大学 5号館3階 5301教室

(4) 共生プラザ ー地域の気持ちをひとつにするー

平成23年度石巻専修大学共創研究センター サテライトキャンパス企画

『共生プラザ』—地域の気持ちをひとつにする—

【実施内容】

目的が同じであっても活動場所や活動時期が異なることが多い。

震災を乗り越えて直面した課題に対して、復興・再生・創設に向かって取組む活動グループが気軽に現状を話し合い、それをどう解決すればよいのかを、石巻専修大学の教員などがコーディネートするワークショップにより、『実践的な活動の場』を提供する。

地域住民の立場から望まれることに対しての共同活動であります。したがって、皆様の希望によっては本プログラム以外のことも加えて参ります。なお、まちの若い方の勉強会になれば幸いに存じます。

【プログラム】

開催予定		講 師・テーマ・会場
プラザ1	8月19日(金) 18:00~20:00	専修大学人間科学部 大矢根 淳によるワークショップ 「減災の観点から考える我町の防災マップ」 会場：アイトピア商店街（チャレンジショップ）石巻市中央2丁目
プラザ2	8月26日(金) 18:00~20:00	サテライトキャンパス企画協力者 伊藤 孝浩によるワークショップ 「人が集まる魅力をつくろう—子供達のサッカー大会の開催」 会場：アイトピア商店街（チャレンジショップ）石巻市中央2丁目
プラザ3	9月30日(金) 18:00~20:00	経営学部 准教授 李 東勲によるワークショップ 外部講師を交えて「地域再生＝ビジネス・チャンスについて語る」 会場：アイトピア商店街（チャレンジショップ）石巻市中央2丁目
プラザ4	10月28日(金) 18:00~20:00	大学開放センター長 理工学部教授 若月 昇によるワークショップ 「太陽電池パネル導入に関する問題について語る」 会場：石巻専修大学5号館 5302教室
プラザ5 《会場変更》	12月16日(金) 18:00~20:00	経営学部 准教授 李 東勲による各プラザの合同会 おわりに「地域の気持ちをひとつにする」 会場：石巻 街カフェ （中央2丁目橋通り・アイトピアの角旧ホシノボックスピア2階）

・各回で提案された意見・要望を踏まえ、石巻商店街（チャレンジショップ）で分科会の開催を予定しております。都合により、内容が変更となる場合があります。

【募集要項】

- 主 催 石巻専修大学（共創研究センター・大学開放センター）・石巻市（共催）
- 受 講 料 無 料
- 対 象 石巻地域の復興に興味のある方
- 募 集 人 数 1つのプラザに40人程度を募集（1つだけの申込も可能・当日参加も可能）
- 申 込 方 法 事前申し込みの場合、いずれかの方法により申し込みください。

【申 込 先】 石巻専修大学事務課学務担当（共創研究センター・石巻専修大学開放センター）

〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1

TEL. 0225-22-7716 受付時間 平日 9:30~17:30

電子メール：kaiho@isenshu-u.ac.jp

必要事項 ①郵便番号②住所③氏名④性別⑤年齢⑥職業⑦電話番号⑧参加希望するプラザ

各学部・委員会などの対応・動向

(5)生活不活発病を防ごう 健康教室

10月16日 室内でできる簡単な体操の紹介:担当
講師 由井 直子(聖マリアンナ医科大学スポーツ整形外科講座)

11月17日 NEATを使って生活活動量を増やそう:担当講師 山内 武巳(石巻専修大学理工学部)

12月15日 簡単なリラクゼーションの紹介。心と体のつながりについて:担当講師 泉水 宏臣(明治安田厚生事業団 体力医学研究所研究員)

(6)日本計画行政学会・宮城大学地域連携センター共催(10月22日)

第1回計画行政復興フォーラム

「東日本大震災を超えて―創造的復興への課題と展望」

(7)関東政治社会学会第8回研究会(12月4日)

「大震災からの教訓と課題」

(8)日本計画行政学会震災支援研究チーム「社会貢献プラットフォーム」(12月5日)

「熟議カフェ:ほえ〜るかふえinいしのまき」

本学学生の参加者は14人

内訳:大学院1人、理工学部3人(4年生2人、3年生1人)、経営学部10人(4年生2人、3年生6人、2年生1人、1年生1人)

1	その時、大学は
2	大学の被災状況
3	地震直後からの大学の対応
4	地域社会への貢献
5	各学部・委員会などの対応・動向
6	建物と地盤について
7	震災を振り返って
	資料編